

支え合うためのありがたいお金

蕪崎市立蕪崎西中学校3年 藤岡 礼伊

「れいちゃん、お母さんね、十日間くらい入院することになったから、家のことを色々と頼むね。」

私は耳を疑った。いつも元気な母が入院するなんて。

母は、手術をして入退院を繰り返した。そして仕事に行けなくなり、家で療養している。食事が済むといつも沢山の薬を飲んでる。

「薬だけでお腹いっぱいになっちゃうわ。」と、笑いながら薬を飲んでる母に向かって、父があることを尋ねた。

「一万円する薬ってどれ？」

私は、一万円という金額にとっても驚いたので父と一緒に覗き込んだ。母は、その薬を見せてくれた。それは、カプセルに入っていて、普通の薬と変わらなかった。

「この薬、一万円もするの？お母さんは、これを毎日飲んでるの？じゃあ、一ヶ月で三十万円？一年で三百六十五万円もかかっているってこと？そんなに払えるの？そんな大金家にあるの？」

母の体のことはもちろん心配しているが、それよりも家計のことの方がもっと心配になってしまった。

「今は、お父さんしか働いていないのに大丈夫なの？来年私たち高校に行くのだよ。行けるの？本当にお金はうちにあるの？」

矢継ぎ早に質問する私に、母は詳しく説明してくれた。

医療には、高額療養費制度という制度があり、かかった医療費を支払ったとしても、国が定めた自己負担限度額を超えた場合は、後でその差額分が戻ってくるという。母の場合は、先に限度額適用認定証の交付手続きを行ったので、医療費がいくらかかっても、自己負担限度額の上限金額までの支払いで済む。しかも四回目以降はさらに安くなるという。今までの手術費や入院費も上限金額までの支払いだったそうだ。

私は、子ども医療費助成制度は知っていたが、このような制度があり、そこにも税金が使われていることを初めて知った。

父も母も、お給料から所得税が引かれ、五月になると、固定資産税や自動車税の請求書が家に届く。私はいつも買い物をするたび消費税を払っている。今までは、「税金をとられている」という感じがしていた。しかし、母の医療費の件を通して、母の命は税金のおかげで守られ、うちの家計は税金のおかげで支えられ、本当にありがたいと思った。

お金を払える人は命が助かり、払えない人は、つらい思いをしたり命を落したりするのは、同じ命の上では不平等である。税金は、不平等さをなくし、安心感を与えてくれるありがたいお金だ。私が納税者になったときは、「取られる」のではなく、「支え合うためのありがたいお金」として、喜んで納めていきたいと思う。